

会議名	平成 22 年度第 3 回八王子市博物館協議会	
開催日時	平成 23 年 2 月 4 日（金）午後 6 時 00 分～7 時 25 分	
開催場所	八王子市郷土資料館集会室	
出席者	委員	大村のり子、小野一之、柿崎博孝、田野倉宏和、田村知美、深栖義昭、藤岡換太郎、吉田幸子、山中幸生（50 音順）
	事務局	齋藤和仁生涯学習スポーツ部主幹（こども科学館担当）・渡辺徳康文化財課長・森融こども科学館主査・戸井晴夫学芸員（郷土資料館主査）、尾崎光二郷土資料館主査
欠席者	西嶋佳子	
議題	協議事項 1. こども科学館事業実施状況(4 月～12 月) 2. 郷土資料館事業実施状況（4 月～12 月）	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	1. 会議次第 2. こども科学館事業実施状況(4 月～12 月) 3. 郷土資料館事業実施状況（4 月～12 月）	

<p>会議の内容 (要旨)</p>	<p>八王子市こども科学館の事業実施状況について齋藤こども科学館館長から説明。つづいて八王子市郷土資料館事業実施状況について郷土資料館尾崎主査から説明。</p> <p>— 質疑応答 —</p> <p>小野会長 両館から説明がありました。ご意見をいただきたいと思いません。</p> <p>小野会長 田村委員</p> <p>田村委員 日本の宇宙開発という番組がオリジナル作品との説明がありましたが、オリジナルを制作するにあたり当初から予算を計上してあったものですか。また、オリジナル作品を作成するにあたりテーマをどのように考えたのか。予算とテーマについてお聞かせください。</p> <p>齋藤館長 オリジナル作品を作る場合には、委託して作成しますが、予算が厳しい状況では単体で作成することは難しいです。しかし、学習番組と組み合わせて制作することでコストを抑えることが出来ます。今回は、日本の宇宙開発と太陽系内・系外の番組と3年生、6年生の学習番組を一緒に作成し、経費を抑えて作成することが出来ました。内容的には、「日本の宇宙開発」では、はやぶサの開発メンバーの一人が八王子に在住しています。その方の地域活動等を導入部分に入れ、宇宙開発に取り組んでいる人が身近にいることを感じてもらい、宇宙やロケット開発に興味を持ち、将来は自分たちも実際に携わることが出来るような夢を持てる作品になっています。</p> <p>田村委員 日本の宇宙開発は一般の人でも見ることが出来ますか。</p> <p>齋藤館長 日本の宇宙開発は大人の方にも満足いただける番組になっています。特別投影番組「日本の宇宙開発とはやぶサ」として59日投影し、1,781人の人にご覧いただいています。</p> <p>田村委員 最近子供が少ないためか、親子で給食を食べる体験が多いと聞くので、その様な体験と一緒にこの番組を見る機会を提供できたら良いと思います。</p> <p>齋藤館長 オリジナル番組を増やすことで、色々な番組を組み合わせたり、外のものや組み合わせたり、お客様の要望に応えることも出来ますし、特徴を出すことが出来ると考えています。</p> <p>田村委員 オリジナル番組があると全国のプラネタリウムと番組の相互利用は出来るのでしょうか。</p>
-----------------------	---

齋藤館長	著作権等の問題を整理すれば、可能であると思います。
田村委員	オリジナル番組を提供することで、館をアピールすることが出来ると思います。
小野会長	今の意見は、八王子からの発信、ステイタスに関わる問題です。よろしくをお願いします。他に科学館に関して意見がありますか。
柿崎委員	小学3年、4年、6年生の実績について説明をお願いします。
齋藤館長	天文の単元が、学習指導要領に入っていたのは小学4年生と中学3年生だったのですが、学習指導要領の改訂がありまして、小学3年生、6年生でも天文を学ぶようになりました。それに対応するため昨年度から番組を作成し、今年度から上映する準備を進めてまいりました。団体投影につきましては、4月から6月は幼稚園、保育園の申し込みが多く、夏休み明けから小学校の申し込みが多くなります。また、小学4年生については、こども科学館の方でバスを用意しますので、市内の70校全部が学習投影に来館しています。小学3年生、6年生については、徒歩や路線バスで来られる学校、バスを学校で準備できるところが来館することになりますので、来館者数に差が表れています。
柿崎委員	学習投影番組を有効に活用できるようにお願いします。
山中委員	指導要領が変更になり、番組を作ろうとした場合には、企画して出来上がるまで期間はどの位必要ですか。
齋藤館長	企画からとなりますと、今回も大分時間を費やしています。学習指導要領に則った学習番組になりますと私達だけの判断で作るわけにはいかなくなりまして、小学校の理科部会の先生に番組制作協力委員として参加していただき、番組の内容を検討してまいりますので、一年間は必要としませんが半年間位が、番組を実際に制作する期間の外に必要となります。
山中委員	作成された番組が学習指導要領の小学4年生の基準に則っていることを認定する機関等があるのでしょうか。
齋藤館長	認定を受けるということはありませんが、学校の授業時間中に来館し観覧しますので、八王子市の小学校の理科部会の先生に監修してもらった八王子市の理科の授業に沿ったものである必要はあると思います。
小野会長	学校連携の根幹にあたる部分になります。他にありますか。

	<p> 田野倉委員 入館者の内リピーターはどの位の人数いるのかが気になります。小学校で来館した後にどのような形で来館されているのか、調査されたら良いと思います。 </p> <p> 齋藤館長 アンケート用紙の内容として何回目の来館かという項目がありますので、数値としてとらえることは出来ますが、任意のアンケートで回収率もあまり高くありませんので、実態を正確につかむことは難しい状況です。館にいて感覚としては、リピーターの方は確実に増えていると感じています。イベント開催時には、面識のある方からかなりお声をかけていただいています。また、子供の場合には、投影学習の時に展示物の体験をする時間が少なかったため、その週末に体験をするために来館される子供もおります。 </p> <p> 小野会長 大村委員 </p> <p> 大村委員 小学校、中学校の生徒さんが来館されたときに、プラネタリウムを見る時間以外の見学時間はどの位ですか。 </p> <p> 齋藤館長 見学時間については、来館される学校が何時限分を充ててくるかによって、見学時間が2時間なのか3時間になるのか決まります。もう一点、館から学校までの距離によっても変わって来ます。小学校の場合は、午前中見学し、学校に帰って給食というケースが多いようですので、プラネタリウム以外の見学時間は1時間程度と思われます。学習投影は午前9時30分と10時40分に行っていますので、9時30分から観覧し、終了後11時30分ごろまで展示物の見学、10時40分から観覧する場合は、9時30分から展示物の見学をして過ごす学校が多いようです。 </p> <p> 大村委員 展示物を見学するのは1時間位ということですが、館側から展示物を説明する体制になっていると時間を有効に使えると思いますが、どのような状況でしょうか。 </p> <p> 齋藤館長 その点は難しいところがあります。八王子の学校の規模は様々で、一学年が100人のところもあれば、一学年一クラス十数名のところもあります。子供達は色々な展示物に興味があり次から次へと体験しますので、大規模な学校では館の方で説明しながら順番に見学することは難しい状況です。子供達には一階、二階に分かれて見学をしています。現実的な対応としては、子供達の質問にすぐに答えられるようにしてお </p>
--	--

	<p>くことだと思えます。</p> <p>小野会長 田村委員</p> <p>田村委員 今回の特別展が「無病息災・家内安全～庶民の願い～」ですが、今までは、八王子に関係の深いものが多かったように思いますが、全国的に民俗的な陰陽師が映画化されたかと思えますが、企画展は八王子をテーマにしたものでないかと開催してはいけないのでしょうか。八王子市民であるという特徴もありますが、日本人であるからといってお稲荷さんを持っていない家もあるし、無病息災はだれもが願いますが、無病息災の願いの仕方も神社もそれぞれ家によって違います。企画展を企画・立案する時には、八王子市に即さなければいけないのですか、世間に迎合するのが博物館の本質というわけはありませんが、人が興味のあることを切り口にしてその中で八王子ではどうであるかというような切り口にすることは出来ないのかと思えます。</p> <p>戸井学芸員 企画展は基本的に八王子に関わることを中心に開催しています。今回の展示についても「お守り」や「お札」を特別に収集しているということではありませんが、民俗関係の調査研究では、生活と信仰は密接に関係していることから資料収集や調査の過程で収集していたものがありました。また、蔵を調査した時に、蔵の所有者から寄贈いただいた資料の中にも多くのお札が含まれていました。そこで、館で収集している資料を活用して、江戸時代から明治時代を中心に、八王子における信仰の対象とどのような地域に行ってお願ひしたのかをテーマに展示しました。</p> <p>田村委員 他館から資料を借りて来るような展示はしないのですか。</p> <p>戸井学芸員 テーマによっては、他館から借用することもあります。基本は調査研究の成果について所蔵資料を活用して展示することになります。以前には、考古学の特別展で全国規模のスタンスで考えた展示を計画しましたし、他館から資料を借用して開催したこともあります。</p> <p>田村委員 民俗関係では、陰陽師がブームになったことがあります。八王子にこだわることなく、その時に広く関心をもたれていることをテーマに展示を出来ないのでしょうか。</p> <p>戸井学芸員 今はやっているもの中央でやっているものをやることは出来ないということではないです。来年度は、村の絵図と鉄道</p>
--	--

	<p>関係を予定しています。両テーマも関心の高いテーマで、他館でも取り上げられることの多い企画です。特別展示室での展示になりますので、館の収蔵資料を中心とした展示になります。市政 100 周年が郷土資料館開館 50 周年と重なりますので、そのときには、常設展示室を含めた展示を開催したいと検討し始めたところで、今までとは違った展示を含めて検討したいと思っています。</p> <p>田村委員 ボランティア活動についてですが、国立博物館等のホームページを見ると、電車賃を使い手弁当で行うボランティアを募集していて、沢山の人が集まっています。目的を持った自主的に活動する出来るボランティアを募集し、50 周年に向けた目標を設定し、共に目標に向かって協働して行けば、苦勞もあるとは思いますが、長期的にはお互いを理解し合った良い活動が出来て郷土資料館のためになると思います。</p> <p>小野会長 ボランティアの運営に関する意見がありましたが、ボランティアの運営について問題点や課題となっていることがありますか。</p> <p>戸井学芸員 郷土資料館のガイドボランティアは 10 周年を迎えることが出来ました。10 周年の記念誌の作成をしているところです。その中で今までの活動を振り返ってもらい、ボランティアだから出来ること今後の目標等を考えていただこうと思っています。郷土資料館の運営に関する良い提案が出て来ると期待しています。</p> <p>小野会長 深栖委員。</p> <p>深栖委員 コーナー展、特別展は、年間に何回開催したら良いのかということ。年間で 2 万 8 千人の入館者で特別展開催期間の入館者数が 5 千人程度でそのほかの期間でもさほど変わらない人数の入館者があるので、コーナー展、特別展を開催する効果について疑問があります。効果があるのであれば、開催する回数を増やすことは考えられるのでしょうか。</p> <p>尾崎主査 特別展開催月でない 1 月には、七福神めぐりの団体が、郷土資料館を七福神めぐりコースに組み込むなど、入館者がかなりあります。4 月には、前年度の収蔵資料を展示する「新収蔵資料展」始めますので、それを目的の来館者はかなりあります。また、特別展開催月のお客様と他の月のお客様では来館の目的が違ふと思います。特別展開催月には図書の販売数</p>
--	--

	<p>が相当増えます。これは、歴史に興味を持っているお客様が、目的を持って来館され、展示図録の外にも図書を購入いただいているからだと思います。もう一点の特別展開催数を増やすことについてですが、回数を増やすことは難しいです。特別展を開催するための準備は1年位前からしています。この準備を開始する前に、日ごろ調査・研究しているテーマの中から市民に公開できるものか検討し、展示・公開に耐えうるものと判断されたものを特別展として開催します。この様な過程を経て開催しますので、回数を増やすことは難しい状況にあります。</p>
小野会長	田村委員
田村委員	<p>行政内でのアピールについてですが、特別展の開催等事業を行うのも予算が厳しい中では難しいことは理解できますが、何もアクションを起こさなければ0×0は0で、何に0をかけても0で、何も起こすことが出来ません。実際に取り組んでいる事実を伝えて行くことが大切だと思います。来館者数を増やしていくことは大事なことです。基礎的な調査や研究について行政内でアピールし続けることも将来的なことを考えると重要だと思います。</p>
小野会長	事務局
尾崎主査	<p>以前にも協議会の中でピーアール・情報提供について意見をいただいておりますが、この度、市ホームページのトップページのトピックスに特別展の紹介が掲示されております。これは庁内での地道に努力した成果が表れたのかと考えております。外に向けてピーアールするとともに庁内に向けても情報提供を続けていきたいと思っております。</p>
小野会長	藤岡委員
藤岡委員	<p>郷土資料館の入館者数にやや減少傾向が見られる。平成20年度の2月・3月に入館者数の伸びが著しい理由と今年共催事業として始めた「八王子の歴史講座」についての評価はどうか聞かせてください。</p>
渡辺課長	<p>「八王子の歴史講座」については、評判も良く、共催相手からも是非続けたいとの話もあるので、現在、学芸員がテーマについて検討中で、来年度も開催する予定で進めています。</p>
尾崎主査	<p>平成20年度2月、3月の入館者の増加ですが、特別展「観光と開発の時代へ」が大変好評だったためです。昭和30年～40</p>

	<p>年代の八王子の変貌する姿をテーマに展示を行いました。昭和の時代に関心が向いている時でしたので、入館者を増やすことが出来たと考えています。</p> <p>藤岡委員 特別展の回数を増やすことには、限界があると思いますので、良いテーマを企画し目玉となるようなものがあれば、入館者を増やすことが出来ると思います。ブームの先取りも必要かと思います。今年は、国際森林年なので、八王子でしたら高尾山の自然や周辺の里山などをテーマとしたものを企画すると来館者数が伸びる可能性があると思います。</p> <p>小野会長 大村委員</p> <p>大村委員 現在、市では市史編さんを進めているようですが、郷土資料館との関係についてお聞かせください。</p> <p>渡辺課長 市史編さん室という部署で、市政 100 周年に向けて市史を作成していますが、その中で郷土資料館が持っている資料を活用することがあります。現在は、郷土資料館の資料を写真撮影したり調べたりしています。また、市史編さん室で収集してきた資料の調査・研究に協力をしているところです。</p> <p>小野会長 吉田委員</p> <p>吉田委員 こども科学館では、理科の先生と協働ですという話がありましたが、総合的学習の見方からいくと、ここの資料をこう使って「自分はこう考えた。」というように、疑問点を解決するために、どのような資料を活用したかが重要となって来ます。先日の八王子の歴史講座「八王子空襲」でも郷土資料館の学芸員さんから戦時中の「隣組の回覧板」等、身近な資料を活用して当時の様子を研究してきたという良い話がありましたので、総合学習担当の先生や社会科の先生に情報を提供していただきたいと思います。両館とも学校との連携を進めたら良いと考えます。もう一点、小学校教育研究部の図工部の先生達がオオルリ展を開催して小中学生の作品を展示しました。最近では書道や家庭科の作品も加わるようになって来ました。今年は新たに、第 2 回八王子市立中学校科学コンクール受賞作品を展示し、市場発表していました。また、中央図書館と市内の小中学校の国語の先生との連携で読書感想文の展示も加わりました。こども科学館でもコーナーを設けて展示をしていただければと学校との連携を築くことが出来ると思います。</p>
--	--

	<p>小野会長 深栖委員 深栖委員 来館者のターゲットを若い女性にしたテーマの企画展を開催したり、八王子には大学が多いので歴史関係のクラブ活動をしている学生と企画展のテーマを協働で行ったら良いと思います。</p> <p>小野会長 藤岡委員 藤岡委員 両館ですが、いわゆる「サイエンスカフェ」、歴史の場合でしたら「ヒストリーカフェ」として、参加型で参加者も加わって議論が出来るようなものが企画出来たら良いと思います。小さいカフェであれば20人位、JAMSTECでは神戸で3日間の開催で、約400人、横須賀で6テーマのカフェ1日で約1,000人参加者がありました。歴史講座4回を4日間に分けて行っていますが、1日で4テーマ、4カフェとして行うのも良いと思います。科学館でしたら、ハヤブサをテーマに話し、子供たちと議論することも出来ます。実際に開催することは大変ですが、検討したら良いと思います。</p> <p>小野会長 郷土資料館に関してですが、社会背景に敏感に反応して全国的な視野でやって行くということは必要なことですが、地域の博物館の立脚点であり帰着点というのは地域です。基になるのは保有する収集した資料です。その資料を調査研究して展示し、市民に公表することが基本です。郷土資料館の方向性について私は、良いと思います。その点を考えると、昨年10月に開催された特別展は大変良かったと思いました。入館者数が前年度に比べ少し減少はしましたが、これまで収集した資料の調査研究の成果を反映した八王子でしか出来ないオリジナリティーのある展示でした。郷土資料館の活動として評価されるべきものでした。適切な評価をしなければいけないと思います。</p> <p>他に意見も無いようですので、本日の協議会はこれで終了したいと思います。</p>
--	--